

さぬきの輪TIMES

乙女な[♥]3冊目



島、女子、地域おこしのリアル





地域おこし協力隊

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、

地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、

地域力の維持・強化を

図っていくことを目的とした制度。

瀬戸内海に浮かぶ香川県でも

たくさん地域おこし協力隊が、

様々な活動を通じて地域に

貢献しています。

「地域おこし協力隊って、なんだ？」

この問いに対する明確な答えはどこにもありません。

答えがあるとすれば、

それぞれの活動そのものが

それに代わるものだと思います。

それぞれの活動を

知っていただくことを通じて、

地域おこし協力隊を

より身近に感じていただき、

さらに地域との連携を

深めていきたい。

そんな想いから、

さぬきの輪TIMESを製作しました。

Contents

- 04 特集「島、女子、地域おこしのリアル」
- 06 土庄町
- 08 琴平町
- 12 東かがわ市
- 15 あとがき

島で活動する 女子協力隊のリアルライフ



(左から)山岸さん、稲子さん、武井さん。山岸さんの活動場所の一つであるブックカフェ&テント型宿泊施設「島小屋」にお邪魔しました。



地域の方と開墾した畑で5月に種蒔きした綿花が実った。「これを使って子どもを楽しめるイベントをしたい」と夢を膨らませる武井さん。

島に来てよかったな
と思うとき

山岸 大きく二つあって、一つは自然。仕事が終わって帰るときに海沿いの道から綺麗な海が見えたりとか、朝出かけるとき、海を見下ろしながら歩いたり。近所の人から新鮮な魚をいただくこともあるから、子どもと一緒に捌けるのはすごく面白いし、いい勉強にもなるよね。もう一つは、外国からのお客様が多いから、海外が身近に感じられるようになって、協力隊の活動とは別に島の環境が新しい事業を始めるきっかけになっていて、そういう環境で子どもと過ごせるのっていいなと思う。

武井 女木島は人口約170人っていう小さなコミュニティの中に、世代を超えて色んな人がいるから、色んな考えの人が一つのことを一緒にできたり、同じ場を共有できるっていうのは喜びだよ。ね。仲の良い人だけで楽しくやるよりも、違う意見の人たちが集まって一つの方向を見て、それが上手く行かなかったとしても、そういう空間が持つてくれるのは喜びだと思うな。

き家の調査では地域の方に会うこともあるから、色んな方にお世話になってるよ。自分が何をやるかによって関わる人が異なってくるよね。

島に移住を 考えている方へ

山岸 移住前のある程度の期間、回数は移住候補地に滞在してみる。実際に暮らす意識で町を歩いたり、現地の方と会話して情報収集したり。実際に移住したときに知り合いがいると安心だし、いざという時に助けられると思う。

武井 コミュニティが小さいから噂がすぐ回るとかよく聞くし、島の中でも見られているなあっていうのは感じたりすることもある。あまり周りにとらわれずにいる方が良いと思うな。

稲子 地方では全体的に生活費が安くなると思う人もいるけど、実際意外とかかるものもあるよね。都会と同じライフスタイルを維持しようと思ったら、余計かかると思う。私はなるべく自給自足的な生活にシフトしていきたくて、あまり物を買わずに豊島にきたし、商業的に何もない感じが逆に良いと思って。豊島には、自分が理想としているライフスタイルをしている人たちが周りにいるんだな、と思った。自分がどの程度の田舎が好きかによって移住地を決めたら良いと思うな。



山岸さんの場合主に、空き家バンクの運営とHPでの情報発信とか、移住促進に関わる活動。役場の職員さん、大家さん、移住希望の方とのやりとりがあって、空

現在、香川県で活躍中の地域おこし協力隊21名のうち9名が女性。今回は、瀬戸内海に浮かぶ島々が美しい香川県ならではの「島女子協力隊」を特集。地域おこし協力隊に興味がある、島生活って魅力的だけど、実際どうなの？先輩島女子協力隊が本音トークします☆



稲子さんが活躍する豊島の唐櫃棚田では、藍、綿花、麦を栽培し、畑作業も島外から参加した人たちとの交流の場になっている。収穫したものを売って、地域の方たちと一緒に公民館講座を企画しています。

島生活あるある!?

- 島内の噂はインターネットよりも早い。
- 最初は時間の感覚の違いに慣れるのに時間がかかった。地域清掃の集合時間に間に合うように行ったのに、すでに半分くらい終わっていたことも。
- 島でとれる旬の食材をおすすめされることも♥
- 島の方が車に乗せてくれるからバスが少なくても大丈夫。

稲子 海に沈む夕日を見ている時。草刈りしながら絶景が見られるとか、そこにいるだけで本当に幸せ。美味しいものがあって、綺麗な景色があって、人が優しくかったら、もう何もいらな(笑)

活動について

武井 女木島の人は皆優しく活動しやすい。一緒に活動しているコミュニティセンターの方とご飯を食べたりし



緑側のある島小屋は近所の方も気軽に立ち寄ることができるオープンな雰囲気。

本気で活動するなら香川県

初めての島生活で最初は戸惑うこともあったと語る彼女たちですが、今ではすっかり島民として馴染み、それぞれ充実した毎日を送っています。香川県では、①協力隊の新規導入に係る事前準備のサポート、②協力隊同士のネットワークを構築する「さぬきの輪の集い」、③協力隊×行政の連携体制づくり、④定住しやすい体制づくりの推進、⑤「FAAVO香川」オフィシャルパートナーとしての起業支援など、本気で地域おこし協力隊をサポートしています。もちろん、女子協力隊だけでなく男子協力隊も大歓迎です☆



千葉県出身
〈女木島〉1年目

武井 美恵子



埼玉県出身
〈豊島〉2年目

稲子 恵



茨城県出身
〈直島〉3年目

山岸 紗恵



建築&デザイン系女子。出産を機に移住を決断。複数の移住候補地の中から、人の優しさに触れて直島に移住。同じく協力隊の旦那さんとともに空き家バンク&直島移住案内ウェブサイト「NAOSHIMA COLORS」を運営。プライベートでは子育てをしながら、空き家を活用したブックカフェ&テント型宿泊施設「島小屋」を夫婦で経営するキャリアママ。

ワーキングホリデーでオーストラリア・カナダ・ニュージーランドに滞在。帰国後オーガニックカフェで働いていたが、自然循環型の生活ができる土地を探し、豊島に一目惚れし移住。瀬戸内国際芸術祭時に、アート作品「イル・ヴェント」内で得意の料理を振る舞い、地元の方と観光客の心を鷲掴み。環境に優しく美味しい「食」と「農」を広める大使。

20代は朝まで働くこともあったが、30代は暮らしを充実させたいと思い、免許がなくても生活できる高松市に移住。元々好きで通っていた女木島で、アパレルメーカーでの生産・企画の経験から、耕作放棄地を開墾して綿花栽培を開始。島内のコミュニティ協議会のサポートや旧保育所の活用も考える。昨年、香川の方と結婚するという一大ニュースが♡

※他の隊員も要チェック!

検索 さぬきの輪web





島を自転車で走る様子をブログにアップし、島×自転車の気持ち良さを発信している。最近では自転車で島を一周したとか。



土庄町 須藤 渚

— 島民と観光客の融合 —



語に触れてもらう教室も行っている。年々、海外からの観光客も増えている島にとって、子どもの頃から英語に慣れるきっかけはとても重要と、いくつかの学校から引き合いがあるという。こうした取り組みも島内外の人たちを上手く交流させたいという想いがあってこそだ。

島民と観光客の融合。海や山、豊かな食べ物など、数ある島の魅力の中で、島民自体が一番の魅力と考えている須藤さんならではの発想だ。島民と観光客が笑顔で交流し、その輪の中心に地域おこし協力隊がいる。そんな素敵な土庄町の未来図が目に浮かんでくる。

プロフィール

須藤 渚

出身地：土庄町
活動地域：土庄町
活動開始年月：平成28年7月

高校卒業まで小豆島で過ごし、その後は大阪の大学で英語を専攻。オーストラリアへ交換留学。テーマパーク等で勤務後、神戸出身の婚約者と一緒小豆島へUターン移住。趣味はトライアスロン、サルサ。楽しいこと、賑やかなことが大好き。



保育所で実施した英語教室。英語を楽しめるようにゲームや運動など、様々な工夫をこらした。子どもたちも夢中で参加し、大満足。



スポーツを通じて島民と観光客が交流し、良い関係性を築くことが島の元気につながると考えているのだ。

「スポーツ自体が目的ではなく、島民と観光客を融合させることが目的なんです。」

スポーツを通じて島民と観光客が交流し、良い関係性を築くことが島の元気につながると考えているのだ。

スポーツバイクにまたがり颯爽と登場したのは土庄町の地域おこし協力隊・須藤さんだ。高校までを土庄町で過ごし、大学・就職を大阪で経験した後、地元で貢献したいと平成28年7月に地域おこし協力隊としてUターンした。

トライアスロンの大会で入賞するほどの経歴を持つ須藤さんは、地元でスポーツを通じた島おこしに挑戦している。一度島を離れたからこそ、地元がスポーツをする環境として魅力的だということに気付けたという。春にはそうした魅力を島内外に発信するために、小豆島一周のサイクリングイベントを企画している。

そうした想いはスポーツだけに留まらない。オーストラリアへ留学経験もある須藤さんは、得意の英語を活かして島の子ども達に英



土庄町企画課に所属する須藤さん。気さくな皆さんとしっかりとコミュニケーションを取りながら、日々の活動を進めている。和気あいあいと話せる関係性から楽しい発想が生まれている。

琴平町 近藤進介

— ITで入口を —

隊員によって様々なスキルを持つているのが地域おこし協力隊の特徴の1つ。デザインや語学など、香川県にも様々なスキルを持った隊員がいる。琴平町の地域おこし協力隊、近藤さんが得意とするのはIT分野だ。大学時代、香川で情報工学を学び、大手企業のソフトウェア開発に従事した近藤さん。自身の強みであるIT技術を使って地域に貢献したいと話す。

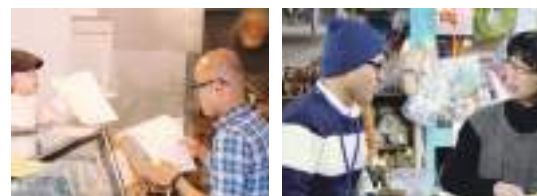
な影響があることを熟知しているからこそできる取り組みだ。ふるさと納税の取り組みと併せて行っているのが農業。農業の情報にもっと気軽に触れられる仕組みを作りたいと考えた近藤さん。まずは自らが農業について知ろうと初挑戦している。

ふるさと納税と農業。一見バラバラに見えるが、この2つには共通点があると近藤さんは語る。

「どちらの取り組みでも意識しているのは、入り口を広げること。ITの力でそれを可能にしたい。」

ITを活用して、欲しい人に欲しい情報を届けることで、琴平町に興味を持つ人が増える。それが地域に人を呼び、町が活気づくことにつながるのだ。

任期後はまちおこし会社を設立したいと考えている近藤さん。自分の得意を活かして町への入口を広げる協力隊から面白い取り組みが次々生まれそうだ。



ふるさと納税へ出品する商品の発掘も担当。地域の方と相談しながら琴平町の魅力が伝わる商品を選定していく。



活動拠点は琴平町総務課。ふるさと納税の他にも、先輩地域おこし協力隊の皆さんと力を合わせ、様々な取り組みを行っている。



初挑戦の農業。地域の方から色々と指導を受けながら試行錯誤を続けている。身体を動かす農業は、良い気分転換になりIT業務にもプラスになっているという。



プロフィール

近藤 進介

出身地：愛媛県
活動地域：琴平町
活動開始年月：平成28年7月

大学を香川で過ごし、情報工学を専攻。就職してからは、主にソフトウェア開発に携わる。
趣味は、料理、音楽鑑賞、ドライブ。





ひとたび山道を歩き始めると、自然に対する好奇心が止まらなくなる山崎さん。自然について話す時の生き生きとした表情がとても印象的。

地域イベントに参加して地域の方に顔を覚えてもらうことも大切な取り組みの1つ。ガイドとして培ったコミュニケーションスキルや知恵がイベント運営に役立つことも多い。



自然だけでなく町の魅力も勉強中。2つの魅力を組み合わせたプログラムを、学校等の教育機関と協働で実施できないかと計画を練っている。



琴平町 山崎智久

— 自然から学ぶ —



「この葉っぱはヤツデっていうんですよ。」

目を輝かせながら話すのは、自然が大好きな琴平町地域おこし協力隊の山崎さん。愛媛県で生まれ育ち、栃木県のアウトドア施設で森のガイドとして経験を積んできた。幼い頃から自然に囲まれて育ってきた山崎さんが琴平町を選んだ理由も、やはり豊かな自然だ。

「ここは文化や歴史と共に自然も上手に守られてきました。そうした自然をこれからも残していきたいし、たくさんの方に魅力を伝えたいです。」

琴平町商工観光課に所属する山崎さんは、地域の行事に積極的に参加する傍ら、自ら町を歩いて地域の魅力や文化を学んでいる。町と自然の魅力を掛け合わせた活動を行うためだ。街歩きツアーやフィールドワークなど、これまでの経験を活かした取り組みのアイデアを巡らせている。

自然を活かした取り組みを行う中で、山崎さんがこだわるのは、自然から学ぶということ。

「植物や昆虫から生きることについて学べるのがたくさんある。そうした学びを子ども達にも提供したいです。」

自然界で暮らす生物から生きるたくましさや学んできた山崎さんは、自然を学ぶことは、人の成長につながり、地域の元気につながると考えている。

連日たくさんのお客で賑わうこんびらさん。一見、観光地に見えるこの町も、自然と共に成長してきた協力隊の目には、学びの山に見えているのだろう。

プロフィール

山崎 智久

出身地：愛媛県
活動地域：琴平町
活動開始年月：平成28年4月



専門学校卒業後、栃木県ツインリンクもてぎに勤務。森のガイドや生き物の紹介、キャンプなどに従事。
趣味はドライブ、カラオケ、森散策、釣り。



東かがわ市 土井直樹

— 英語できっかけを —



「Hello! I'm good!」元気な子供たちの声が響く教室で活躍する地域おこし協力隊がいる。今年の5月に地元東かがわ市に地域おこし協力隊としてUターンした土井さんだ。英語教育に力を入れる同市の学校教育課に所属し、小学生の放課後英語クラブの授業をサポートしている。

「子供たちに外国の文化を体験してほしい。」

そう語る土井さんは、自身も高校時代に学校の制度を利用してオーストラリアに留学した。

「英語は全然話せなかったけれど、すごく良い経験でした。今の子供たちにもそうしたきっかけを作ってあげたいんです。」

土井さんが目指すのは、英語教育なら東かがわ市、と言ってもらえるような体制づくり。それには教育人材の確保が欠かせないという。放課後英語クラスも、少ない人員で行っているため、市内の小学校全校での実施にはまだ至っていない。

「一方で、地元に戻ってきたくても仕事がないという人もいます。」



普段は市役所のデスクで作業することも多い。市政や学校教育について様々な情報が入ってくるので、それらを活かした取り組みを目指している。



先生方と授業の目的や構成を考えることも大切な役割の1つ。英語教育に対するそれぞれの想いをまとめながら授業を組み立てていく。時には授業後に2時間以上話し合うこともあるという。



プロフィール

土井 直樹

出身地：東かがわ市
活動地域：東かがわ市
活動開始年月：平成28年5月

県立広島大学在学中、1年間カナダのトロントで英語を学ぶ。卒業後、広島で旅行会社に勤務。
趣味はスポーツ(野球、サッカー、バスケ)。



その辺りを上手く結びつけられれば人口減少対策にもつながると思うんです。」

海外への興味を持つきっかけをつくってくれた町へ地域おこし協力隊として戻ってきた土井さん。子供たちが海外へ興味を持つきっかけを作るだけでなく、たくさんの方が東かがわ市に戻ってくるきっかけも作ろうとしている。教育を通じて地域に恩返しをする。まさに土井さんならではの発想だ。



生徒1人1人に寄り添いながらサポートする土井さん

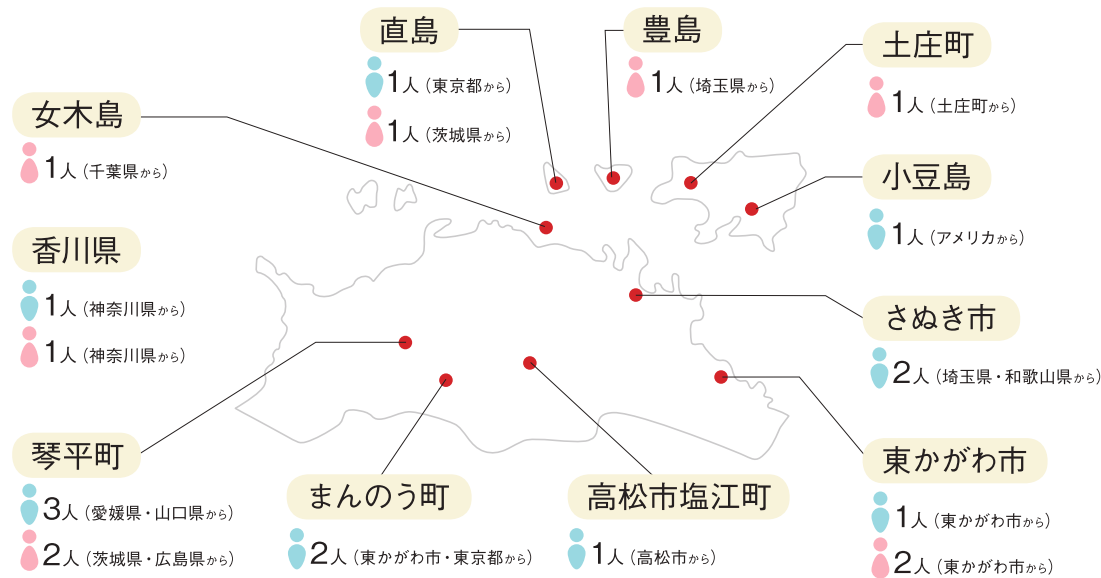


「英語に慣れ親しむ」を目的に行われる放課後英語クラブ。子どもたちが楽しく英語に触れることができるよう、音楽や絵を交えたとても賑やかな授業が行われている。

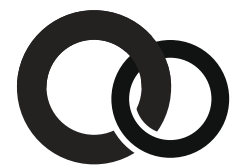


地域おこし協力隊の活動場所

今回、紹介した市町の他にも、地域おこし協力隊を受け入れている地域があります。各地で活躍する彼らの様子は次号以降で紹介していきます。(平成28年12月1日現在)



ロゴについて



大きな輪は地域を、小さな輪は地域おこし協力隊を表しています。それぞれが個性的で多様性に富んだ協力隊の輪はカラフルで、決まった色はありません。その時々で色が変わります。大きな地域の輪に、小さいけれど多様でカラフルな地域おこし協力隊の輪がつながることで、さらに豊かで活き活きとした香川県になってほしいという思いが込められています。



地域おこし協力隊
本気宣言ロゴ

大きな地域の輪をグッと握むのは、地域おこし協力隊をはじめとする「地域おこしに本気の人々」。地域・行政・地域おこし協力隊の本気が重なり合って初めて実現することのできる地域おこしを表現しました。

● あとがき ●

“原点にもどる3冊目”

その数と共に多様性に富んできた香川県の地域おこし協力隊。これまでの経験や協力隊になる時の想い、現在の活動内容など、誰一人同じ人はいません。そして、そこにはスーパーマンがいるわけでもありません。それぞれが手探りで活動を進めています。“地道に、粘り強く、想いを持って地域と向き合う”。島で活躍する皆様の等身大の声からは、そうした当たり前の大切さに改めて気づかされた気がします。そこから考えると“地域おこし”とは協力隊だけの特権でもなく、そこに住みなさまが日頃から実践されているそのものであり、そうした想いを紡いでいくのが我々の役割なのではと感じました。地域おこし協力隊コーディネーターとして最後の年度を迎えるタイミングで、想いの原点に立ち返ることができた3冊目となりました。ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。



秋吉直樹

“女性の目線で”

今回、初めて「さぬきの輪TIMES」の制作に関わらせていただきました。私自身女性ということもあり、女性ならではの目線で発信したいという想いから、今回は島で活躍する女性協力隊員に焦点を当て、座談会を実施させていただきました。乙女な3冊目となりました。島暮らしと聞くと、ゆったりとした素敵な毎日を送れるというイメージがありましたが、実際は意外と多忙で大変なこともあるというお話もありました。しかし、それでも島にはそれ以上に魅力があり、そこでたくましく生きている彼女たちから元気で勇気をもらいました。地域の皆様、元気に活動している隊員を見かけた際にはぜひお声掛けください。最後に、お忙しい中本冊子の制作にご協力いただきました隊員の皆様へ心より御礼申し上げます。



吉田 恵



本気 その1
導入目的
明確化サポート

本気で導入準備をしています!
「なぜ協力隊を導入するのか?」「何のために、どんな事を協力隊にしてもらいたいのか?」行政・地域・コーディネーターが事前に徹底議論しています!



本気 その2
協力隊ネットワークで
支え合う

本気の仲間がいます!
月に1度さぬきの輪の集いという地域おこし協力隊同士の意見交換会を開催しています。アイデアを交換したり、悩みを打ち明けたり、隊員同士で支え合えるネットワークができています!



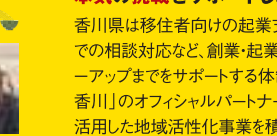
本気 その3
協力隊 ×
行政連携体制サポート

行政と協力隊の本気の付き合い
県独自の行政職員・協力隊向けの研修や、行政と協力隊が意見交換をする座談会を実施。行政と協力隊が2人3脚で地域協力活動に取り組めるような体制づくりを進めています。



本気 その4
定住しやすい
体制づくり

本気で暮らしをサポートします!
県内の空き家情報が一目で分かる「かがわ住まいネット」やサポートスタッフによるマッチングサービスが充実の「jobナビかがわ」など、任期後の定住を応援する体制を整えています!



本気 その5
挑戦しやすい
体制づくり

本気の挑戦をサポートします!
香川県は移住者向けの起業支援補助金や創業支援センターでの相談対応など、創業・起業の準備段階から創業後のフォローアップまでをサポートする体制を整えています!また「FAAVO 香川」のオフィシャルパートナーとして、クラウドファンディングを活用した地域活性化事業を積極的に応援しています。



日本中で地域おこし協力隊の募集が始まっています。しかし、ただ「導入」するだけで効果を発揮するものではありません。地域・行政・隊員、それぞれの本気があって初めてスタートラインです。そこで香川県は宣言します!
地域おこし協力隊に本気で向き合う事を!
大歓迎する事を!
「私たちの本気宣言」を公開中!

続 地域おこし協力隊 本気宣言

宣言しただけではありません! 地域が、隊員が、それぞれ輝くために新しいことにチャレンジしています。

さぬきの輪 そろばん教室

「予算っていつ決まるの?」「活動費ってどんなことに使うの?」「とにかく行政の予算って分かりにくい...」そんな地域おこし協力隊の声にお応えすべく「さぬきの輪そろばん教室〜みんなで考える協力隊の予算〜」を開催しました。



さぬきの輪 TERACOYA

地域おこしに必要な知識・スキルの取得を目指した研修企画。地域と協働するために大切なコミュニケーションスキルを中心とした学びの場です。



さぬきの輪 連携事業

地域の枠を超えた連携。民間団体との連携。地域おこし協力隊ネットワークの強みを活かしたコラボ企画を実施しています。





さぬきの輪